

「障害の有無に関わらず地域で共に育つための
交流及び共同学習の在り方について」
～居住地校交流・学校間交流の推進～

千葉県立野田特別支援学校

電話 04-7122-7270

FAX 04-7123-8474



研究のポイント

本校には、開校当初から続いている近隣の小中学校や公立高等学校との学校間交流がある。しかし、感染拡大防止を鑑みて昨年まで2年間の学校間交流及び居住地校交流は行わなかった。今年度は、改めて交流の形を見直し、今できる交流学習を考え、交流実施の方向で取り組むこととした。各学部、パラスポーツを取り入れ交流活動を行う。これまでの交流の積み重ねを大切にして、相互に充実できる交流を目指す。

■学校の概要 <https://cms1.chiba-c.ed.jp/noda-sh/>

本校は、千葉県北西部東葛飾地域の野田市に平成元年に開校した特別支援学校である。学区は野田市と一部の柏市・流山市として、知的障害及び肢体不自由の小学部1年生から高等部3年生まで通っている。また、視覚障害、聴覚障害などを併せ有する児童生徒や、医療的ケアを必要とする児童生徒も通学している。

平成16年から3カ年、文科省から「センター的機能の推進」という研究指定を受け、地域における障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実を目指して取り組んだ。本校には、地域の特別支援学校として根付いた地域との交流がある。

■研究課題

居住地校交流の新しいシステムの構築と推進及び、地域で育つ新しい形の学校間交流についての実践研究を行う。

■研究の目的と方法

1 目的

「発達段階に応じた交流を行い、相互理解、障害理解の深め、共生社会の形成につなげる」

2 方法

○「居住地校交流実施マニュアル」の作成を行い、システムの構築を図る。

○職員研修を実施し、学校としては「居住地校交流の在り方」について理解を進め、野田市教育委員会と情報共有を行う。

○交流活動では、発達段階に応じたやりとりや活動を行うことで、同年代の仲間と相互の理解を深める。

- ボッチャについては、小学部・中学部で紹介、高等部ではゲーム実践を通して理解を深める。
- 中学部では手話講習会を行い、千葉県手話言語条例のもと多様な言語について地域の理解を深める。
- ICT活用等、感染症対策を徹底した交流学习の実施を行う。
- 事前アンケートから交流内容等を計画立案し、実施後のアンケートから児童生徒の変容を検証する。

■研究概要

○新しい交流の形

【小学部】相手校：野田市立東部小学校

「オンライン交流会」（クイズ・手話歌）、「学校・訪問学級児童を結んだオンライン三画面交流」「動画交換」、「アニメ動画でボッチャ紹介」

【中学部】相手校：野田市立東部中学校

「Tスロー交流会」、「共同制作つばさアート」

【高等部】相手校：千葉県立清水高等学校

～ハイブリッド交流（間接交流・直接交流）～

「アプリでボッチャ対戦」「ボッチャゲーム対戦」

「オンラインで学校紹介」「高校紹介で電気作品（ワンダーライト）作製」

○相互理解の充実

- ・「居住地校交流実施マニュアル」の作成、系統的連続的交流学习を構築
- ・発達段階に応じたやりとりや活動
- ・手話動画や手話歌唱、出前授業で手話講習会（多様な言語の理解）
- ・出前授業（中学部の学校間交流）

○パラスポーツの推進

- ・小学部、中学部で「ボッチャの紹介」
- ・高等部で「ゲーム実践」（清水高校の球技大会に支援学校教員を講師派遣）

<成果と展望>

○学校間交流では、直接交流と間接交流を両方実施する「ハイブリッド交流」を行う事で児童生徒達の交流に向けた期待感が高まった。コミュニケーションが活発になり児童生徒同士の仲が深まり、相互理解をすることができた。

○各学部に応じたボッチャの活動に取り組み、パラスポーツの推進が図れた。（清水高校球技大会種目にボッチャが採用。文化祭で「ボッチャ紹介体験ブース」）

○学校間交流が深まり、保護者が地域交流に興味をもったことで、居住地校交流への希望を聞くことができた。来年度の居住地校交流実施につなげたい。

○職員研修後、居住地校交流への理解が進んだ。案内プリントの再配布により、保護者の関心を広め、希望者を募り、居住地校交流実施につながった。来年度以降は、直接交流の他、保護者付き添い等の負担の少ない間接交流（オンライン交流）の形を提案していく。